

2023年度 株主・投資家との対話の実施状況について

2024年3月21日
東日本旅客鉄道株式会社

実施内容

機関投資家・アナリスト向け

決算説明会 IR Day スモールミーティング 1on1ミーティング

個人向け

Web説明会 施設見学会 意見交換会

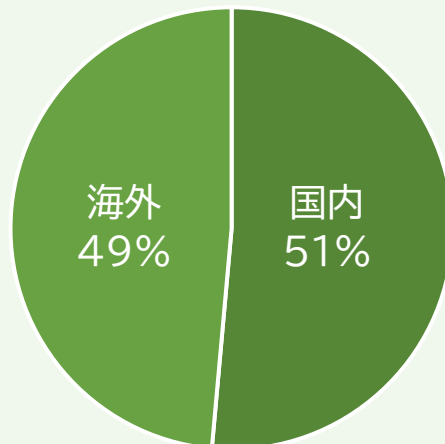
対応者

社長・常務取締役・常務執行役員・執行役員・社外役員・ユニットリーダー・マネージャー

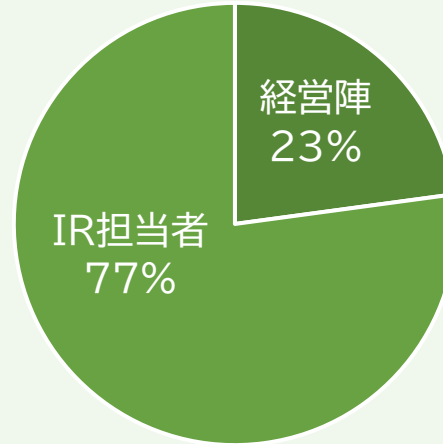
2023年度
機関投資家・
アナリスト向け
ミーティング数

約350件

国内／海外



経営陣／IR担当者



株主・投資家の主な関心事項

モビリティ

- ・ 運賃・料金制度の見直しと値上げの可能性
- ・ ご利用の少ない線区に関する議論の状況
- ・ コロナ後の運輸収入の水準とインバウンド向け商品の値上げ効果
- ・ 1,000億円のコストダウン計画の進捗と鉄道事業の中期的な利益水準

生活ソリューション

- ・ 各事業の収益回復状況
- ・ 不動産事業における回転型ビジネスの今後の見通し
- ・ 品川開発プロジェクト(第Ⅰ期)における工事の状況とリーシングの進捗
- ・ Suica事業の今後の成長性

資本政策

- ・ 今後の設備投資の見通し
- ・ 不足資金の調達方法と今後の有利子負債の水準
- ・ 株主還元方針と今後の見通し

ESG

- ・ 「ゼロカーボン・チャレンジ2050」のロードマップと水素ハイブリッド電車の開発状況
- ・ 地方創生の取り組み状況と資本効率との両立
- ・ 諮問委員会の実施回数について

経営陣や取締役会へのフィードバック

- ・ 取締役会に対しては、定期的に担当役員から対話の状況をフィードバック
- ・ 社長をはじめとした担当役員には、対話担当部門から関心事項を随時報告
- ・ 各業務部門に対しては、社内会議において担当役員から概況を説明

これまでの対話やフィードバックを踏まえて取り入れた事項

- ・ JR東日本グループレポートにおける価値創造モデルの明示、マテリアリティの再定義など
- ・ 決算説明資料における開示拡充(運輸事業及び不動産・ホテル事業の関連指標など)
- ・ SBT(Science Based Targets)の認定取得に向けたコミットメントレターの提出
- ・ 役員報酬制度の改正(業績連動部分の割合増、ESG指標の導入)

2024年度 株主・投資家との対話拡充に向けて

・ 機関投資家・アナリスト向け

第2四半期及び期末決算説明会は、代表取締役社長が出席

第1四半期及び第3四半期決算説明会は、グループ経営戦略本部長が出席

・ 個人向け

Web説明会や施設見学会等の実施回数増によるさらなる対話機会の充実化